

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2024~2025年度 No.300

12月報

那須クラブ会長 主題

ユースと共にミッションを



強調月間：キリスト教理解
IBC
祈りの輪（8日）

今月の聖句 ヨハネによる福音書 17：21

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちの内にいるようにしてください。…後略

12月第1例会（クリスマス讃美礼拝・祝会）

日時：12月14日（土）午後6時～

場所：日本基督教団 西那須野教会

養徳園の方々をお招きして、パイプオルガンを木村真喜子さんの演奏、西那須野教会潘牧師によるメッセージによる讃美礼拝と、祝会の食事の準備をしてくださるのが、田村有紀子さんとその友達2名です。ユースリーダーによるゲームで楽しむ会です。

総合司会 藤生 強 書記

開会点鐘・挨拶

会長 田村 修也

ワイズソング斉唱

第1部 讃美礼拝

司会 藤生 強

奏楽

木村真喜子

メッセージ

西那須野教会 牧師 潘 炯旭

第2部 祝会

司会 鈴木 保江

ゲスト・ビジター紹介

会長

食前祈禱

原田 明子メン

会食

クリスマスをお祝い

ユースリーダーによるゲーム・クリスマスソング

サンタさんによるクリスマスプレゼント

クリスマス献金贈呈

ギデオン協会による聖書贈呈

閉会挨拶・点鐘

会長 田村 修也

会費 メン・メネット 1,000円 ゲストは無料

2024~2025年度 主題

国際会長：(IP) A・シャナヴァスカーン (インド)

「より良い世界のために、共に」

アジア太平洋地域会長：(AP) ジョウン・ウォン (香港)

「大きなインパクトを起こそう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平 (宇都宮)

「ワイズの方向性を見極める」

北東部長： 大久保 知宏 (宇都宮)

「戦略2032を意識して」

クラブ役員

会長：田村 修也

副会長：村田 榮

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：塩澤 達俊

ブリテン：田村 修也・村田 榮

11月例会データ（出席率：71.4%）

メンバー5名、メネット2名、ゲスト6名、ユースリーダー2名

在籍者 7名

12月 Happy Birthday

12/30 張 蔚麗メン

12月例会（クリスマス礼拝・祝会）

日時：12月14日（土）午後6時～

場所：西那須野教会

1月第2例会（役員会）

日時：12月27日（金）午後4時30分～

場所：田村会長宅

1月第1例会（新年例会）

日時：1月18日（土）

場所：おかしげ

巻 頭 言

鈴木 保江

子育て奮闘記たぶん20弾

最近のとおき。次男坊が高校に入り写真部に入っていたのですが、秋の高校生写真展栃木県でなんと準特選に選ばれ関東地区写真展に参加できることになりました。来年2月に千葉県で行われます。そんなセンスがあったとは思ってもよらなかったのですが、喜ばしいことです。いろいろなところに出かける時はカメラを持って出かけんしゃいとはげましておりました。きれいなものをみてきれいだと思えることが大切かと育てたかがありました。準特選に選ばれたときは、いつもおとなしい次男坊はうれしそうに報告してくれました。全部で4枚出展し1枚は佳作にも選ばれました。体育会系ではなく、気分が乗れば筋トレや体を動かしている程度で、運動はどちらかというと苦手ですね。勉強も苦手ですが、遊びや友達と出かけることは人一倍行動力を発揮しております。そんな次男坊は、将来の職業もきめて高校のクラス替えもひかえています。なかなか進まない、のんびり屋ですが、自分のことです。ゆっくり決めていって悔いのないよう進んでほしいですね。

長男坊は、あまり変わりませんが、なんとなく少しずつ大人になってきていると感ずることがあります。わからないことを聞いてきますが、やや理屈っぽいところがあり自分なりに納得いかない、とことん反論してきます。ときどきみせる、大人への準備期間だと付きあってますが。最近は大学も頑張らないといけないんだと感じているようで、がんばって勉強し単位の取得に励んでおります。しかし、夜更かし、ポケモンカードゲームなどをきりなくやって、食事はいつも冷めた夕食でマイペースです。ママがつくったおいしい食事は、どこへ行くのでしょうか。味にはうるさくおいしいと「おいしい」といいますが、「胡椒がきいてるね」「これはおいしかったね」「大変だね」「どうやって作るの」など感想はばっちりです。やっと20歳になり選挙もいくようになりました。車の運転は、まだ自信がないようでこれまた、マイペースでゆっくり運転しています。慎重すぎるくらいです。

それぞれに成長してきてますが、両親とも2人がやりたいことはどんどんやっていいよと体験できるようにしています。私たちの子供のころのように自分で考える機会は減ったと思ってましたが、今の時代にそって成長できてるのが何よりです。最近の子供たちでした。



11月例会

於：西那須野教会 2024.11.30

11月例会報告

日時：2024年11月30日（土） 午後6時～

場所：日本基督教団 西那須野教会

出席者：田村、村田、藤生、原田、張の各メン、田村、村田の各メネット、ゲストスピーカー古川勢子さん、ゲスト：潘牧師ご夫妻、他西那須野教会員3名、ユースリーダー2名 計15名



西那須野教会役員の古川勢子氏をゲストに迎え、古川氏が監事を務める「NPO法人キッズシェルター」の活動をお聞きしました。「キッズシェルター」

は2003年に『応援します。あなたの子育て～ひとりではがんばらないで～』をテーマに、子育ての仲間たちと地域での子育て支援を目的に設立されたとのことでした。当初の活動の中で、“母親が美容院へ行くため、など『理由を問わない』預かり保育を行っていたとのことでした。認可保育施設ではこのようなサービスは無く、配偶者や親など家族には頼れず、“ママ友、”の様な子育て仲間も居らず、などひとりで子育てしている母親にとってこのような支援は必要とのことでした。



これらの働きがあり、2014年に那須塩原市の委託を受けて「要支援児童放課後応援事業」として「子どもの居場所にじのいえ」をスタート

されました。学校から家に帰っても夕ごはんは無くお風呂も入れずの要支援児童のため、放課後に学校へ迎えに行き、「にじのいえ」で夕ごはんを食べてお風呂に入り、自宅へ送る、の支援を行います。利用した子どもたちからは「話を聞いてくれた」「宿題を見てくれた」「好きなごはんが食べられた」「体調が悪い時になぐさめてくれた」などの感想があり、子どもたちにとって“寄り添う、”ことが必要であると感じたそうです。また学校での身の回り品を新しく買って提供もしていたそうで、上履き（指を丸めて履くほど小さかった、お下がりだと前の持ち主の名前が書いてある）、体操着（お下がりだと洗っても薄汚れている）、調理実習用の三角巾、芋ほり活動で使う軍手、眼鏡（度の合っていない眼鏡をしていた）など、子どもたちはとても喜んでいましたそうです。本来であれば市から家庭へ支給されているお金で購入して欲しいが、親が別のものを買ってしまうケースも多々あるとのことでした。しかしながらスタッフが高齢などの理由から、2023年度をもって委託

の更新はせず、「にじのいえ」を終了したとのことでした。

また、「にじのいえ」開設の年に「お昼ご飯の会（子ども食堂）」もスタートしたとのことでした。「にじのいえ」を利用する子どもたちへ休校時にお昼ご飯を提供することを目的（土曜日や夏休みなどは給食が無い）としており、食べに来ることの出来ない子どもには自宅までお弁当として届けることもあるそうです。

「にじのいえ」は終了しましたが、「お昼ご飯の会（子ども食堂）」は継続して行っているとのことでした。また要支援児のためのお泊りである「ショートステイ」も行っているとのことでした。

とちぎYMCAも「要支援児童健全育成事業」を2018年から行っていますが、「にじのいえ」の様に“とても丁寧に子どもたちに寄り添う、”までは行っていないと感じました。もちろん「地域や市から求められている役割」「法人の方針」などが違うため同じことは行えませんが、『子どもたちへの支援のあり方』の一つを学ぶことが出来た思いがしました。

11・12月第2例会（役員会）報告

日時：10月25日（金）午後4時30分から

11月25日（金）午後4時30分から

場所：田村会長宅

出席者：田村、村田各メン、田村、村田メネット
協議事項

1. 10月例会について（反省）

多くのゲストの方々の協力があったて、2日間のバザーが成功裏に終了することができた。感謝です。

2. 11月例会について

11月例会を、11月30日（土）午後6時より、西那須野教会にて行う。ユースリーダーと共に、「西那須野地域の子ども食堂について」のお話をお聞きする。ゲストスピーカーは西那須野教会役員古川勢子さん。食事の準備は、西那須野教会古川さんと高久さんをお願いをして、メンバーは、1品持ち寄りとする。

3. 12月例会（クリスマス礼拝・祝会）について

養徳園の方々をお招きして、12月14日（土）午後6時から、西那須野教会で開催する。プログラム作成と印刷は、田村会長。祝会の食事については、田村有希子さんとお友達2人にお任せする。讃美礼拝のメッセージは潘牧師、オルガニストは木村真紀子さんに依頼。平山主事ご夫妻、荒井浩元主事に案内する。ゲーム指導をユースリーダーにお願いする。

謝礼は、潘牧師10,000円。木村真紀子オルガニスト5,000円。田村有希子さん5,000

円。お手伝いをいただく2人は2,000円。献金先、アジア学院10,000円、聖園那須老人ホーム10,000円、養徳園10,000円。いつもお世話になっている、古川さんと高久さんに10,000円。ユースリーダーの活動補助として、30,000円を贈る。

4. 1月(新年)例会について

1月18日(土)午後6時から「おかしげ」で行う。1年の抱負とお世話になっている方々、潘先生ご夫妻、アジア学院、古川さん、高久さん、田村有希子さん、平山ご夫妻、ユースリーダー等を招待して行う。会費は、5,000円。

5. 2月例会(リーダー報告会)について

リーダーの都合に合わせて行う。調整は、塩澤担当主事をお願いします。できれば卒業するリーダーの参加をしてもらい、記念品を渡す。

6. 能登半島豪雨緊急支援募金について

クラブとして、とちぎYMCAを通して20,000円を献金した。

7. 1月第2例会(役員会)について

12月27日(金)午後4時30分より田村会長宅で行う。内容は、1月例会・2月例会についての打合せ。

開拓と信仰の姿「開拓と西那須野教会」-(2)

会長 田村 修也

岩手県史によりますと、2万石の八戸藩は、1675年の延宝3年から1837年天保8年までの162年の間に、15,800石以上の凶作被害の年が元禄15年、宝暦5年、13年、天明3年、天保7年、8年と6回。半作と言われる1万石以上の凶作被害の年が23回、凶作年次が38回と記録されていますから、平年作はほとんど期待出来なかったのではないかと思います。1787年天明7年の浅間山の大噴火は想像を絶するような被害をもたらしています。2年に1回、いやいつも飢えと戦わなければ生きていけなかったからなのです。

印南丈作さんも南一郎平さんも島村蚕業生産の元祖である田嶋弥平さんも、このような時代に生れ幼少期にこの大飢餓を生き延びてきた方々でした。生きていく糧、食べ物を確保していく為に、どれほど苦労したか、想像を絶するものがあります。余談になりますが、犬飼道子さんが書いた「人間の大地」を読んで以来、これだけの土地があれば、何人の人が生きていけるか考えるようになり土地を見る目が変わってしまいました。

今は絶版になっております教育社歴史新書・日本史シリーズ94「飢餓」で、荒川秀俊と言う方が書

いております。2.26事件の時も東北地方は冷害で苦しんでおりました。源平合戦の時も平家方の関西は冷害に見舞われていたとのこと。年表資料を御覧ください。幕末は大変な時代であったことが読み取れます。全国的に農民一揆が頻発するなか、開国、明治維新へと向かっていったのです。

キリシタン禁令高札の撤去と宣教師の来日について入らせて頂きます。幕府は慶応4年3月15日に切支丹宗門禁制の高札を永年掲示としました。この年の10月23日に元号が明治となります。また、明治5年に、東京芝で貸本屋を営んでいた市川栄之助という人が、築地ホテルに出入りしているうちに、来日した宣教師グリーンと親しくなり、彼の日本語教師となりました。グリーンが神戸で伝道始めるにあたって、市川夫妻は神戸に住んで、グリーン宅で日本語を教え、聖書を筆写し、外国人のための日曜礼拝にも出席などしていたので、この年、キリスト教を日本に広める手引きをし、禁書である聖書を筆写した容疑で逮捕され、京都の獄中で死亡しました。この事件は、岩倉使節団がワシントンで条約改正の交渉中、デ・ロング駐日公使から持ち出されて、岩倉からの緊急連絡で切支丹禁令の高札が撤去されることになりました。この岩倉具視、木戸孝允、大久保利通という政府高官等の岩倉使節団が渡米した際の通訳者として仕えたのが、1864年元治元年函館から密出国してアメリカに渡った安中藩士新島襄でした。明治6年2月24日に切支丹禁制の高札が撤去された背景には、殉教者がいたということでもあります。(以下次号へ)

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園

西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

先日、近くを見るためにメガネを頭にずらして、しゃがんで見ていました。するとある園児が寄ってきて「だいじょうぶ?」と声を掛けて、メガネを定位置に戻してくれました。私は「ありがとう」と応えました。数日後、私が咳をしているところに、別な園児が通りかかり振り返って「だいじょうぶ?」と声を掛けてくれました。「ありがとう。大丈夫」と返答をしました。私は、思いがけない2人のことばに加えて、子ども達の心の成長を実感することができて、大変うれしく思いました。

私は、子ども達の「大丈夫?」という優しい気持ちと行動を受けて、北九州で路上生活を余儀なくされている人の支援を30年以上している奥田知志牧師と脳科学者茂木健一郎さんの「『助けて』と言える国

へ「一人と社会をつなぐ」を思い出しました。そこには、今は「助けて」と言えない社会になりました。そのため、若者も家に戻りにくく、路上生活を余儀なくされている方が少なくないとなりました。

以前、県北健康福祉センターでの給食についての集まりで、県北地区における子ども(親)の貧困と栄養についての報告がありました、いわゆる町中に住んでいる家族は、野菜が高いです、ご飯・うどんの炭水化物にかなり偏っています。一方、農家も多い塩谷町など、コミュニティが機能しているところは、近所の人たちが野菜を届けたり、見守ったりして、栄養の偏りが少ないとの報告がありました。

私も今の社会はコミュニティの助け合い機能が喪失し、「助けて」と言えない社会だと思います。このような社会だからこそ、子ども達が教えてくれた「大丈夫?」という問いかけがより大切に感じます。

子ども達は、幼稚園生活のなかで、いろいろなことを学び、実践しています。今回は、この園が大切にして、「聖書の愛」を子ども達が体現していることがわかりました。

保護者の皆様は、「大丈夫ですか?」、困らないうちに園に相談ください。

また、宮城教育大学名誉教授による「子育て相談」、原明子保健師による「こころ・健康・子育て、なんでも相談」、スクール・ロイヤーの栗谷しのぶ弁護士による「法律関係相談」もご利用下さい。

アジア学院たより

学校法人 アジア学院
アジア農村指導者養成専門学校
副校長 大柳由紀子

10月12日～13日の二日間にわたって行われた収穫感謝の日を終えると、学生たちの研修も最終段階に入りました。10月後半から11月にかけて、それぞれ三日間にわたって行われた非暴力コミュニケーションとコーチングのワークショップがありました。これらはコミュニケーション技術であり、人々と共に地域で働く際にとっても有用な技術です。相手との共感をベースにして、その感情とニーズを知り、相手を傷つけないコミュニケーションや和解につなげる非暴力コミュニケーション。教えるのでも導くのではなく、クライアント自身が答えを持っていることを信じ、傾聴や質問を通して答えを引き出す手助けをするコーチング。これら2つのワークショップは、様々な知識や技術を学んできたアジア学院学生たちにとっても「最良の学びの一つとなった」との感想が出るほどの影響を与えました。

11月に2週間にわたって実施された西日本研修旅行

では、東京(農村伝道神学校)、静岡(聖隷クリストファー中高校)、三重(愛農学園高校)、大阪(大阪南YMCA)がアレンジする、差別問題フィールド学習)、熊本(水俣病学習)、広島(平和学習)と、日本各地を回りながら開発の裏側にある諸問題について学びを深めました。アジア学院のマイクロバスで各地を訪ね、「なぜホームレスや差別などの問題が起きるのか」「公害が地域にもたらす問題とは何か」「ひるがえって自分の地域ではどうか」「日本の若者たちはどのような未来を描いているのか」「平和の大切さ」などについて多くの学びを得てきました。

アジア学院に戻ってきてからは、レポートのまとめと最終発表が続き、これまでの学びを総括して分かち合う時を持ちました。初めての雪遊びもはさみつつ、学生たちは12月14日に無事卒業式を迎えました。

9か月の研修は、長かったと感じることも、足りないと感じることもあったと思います。時にぶつかり、時に励ましあい、笑うことも泣くこともたくさんあった日々でした。早く帰りたいという願いも、もっとここにいたいという願いも、その両方が偽りのない気持であったでしょう。それでも「たくさんのことを学んだよ。あとは地元で実践のみ!!」と意気込みながら帰国していった彼らのこれからを、お祈りに覚えていただければ幸いです。

研修内容(10月～12月): 障がい者が農業に取り組むための支援技術、平和と和解、コーチング、卒業生セミナー(93卒、ウェスリー・リング)、研修全般に関する質疑応答、出発に関するオリエンテーション、卒業生オリエンテーション、気候変動教育、サーバントリーダーシップ2、フードライフ経営活動リフレクション、最終口頭発表、研修リフレクション、校長面談。

見学研修・交流: 農村伝道神学校、聖隷クリストファー中・高校、十字の園、アドナイ館(第一、第二)、聖隷博物館、山中忍(ミカン狩り)、愛農学園高校、大阪南YMCA、NPO釜ヶ崎支援機構、野宿者ネットワーク、関西沖縄文庫、コリアNGOセンター、水俣病歴史考証館、からたち、一般社団法人きぼう・未来・水俣、梅光学院大学、広島平和記念資料館、広島平和公園。宇都宮北高校。

総研修日数: 258日間

総研修時間: 1907時間

科目数: 48科目

研修旅行総移動距離: 約4500km

YMCAだより

メリー・クリスマス&ハッピー・ニュー・イヤー！
◇《2024とちぎYMCA会員大会》がWEBで
開催中！



毎年行われ
ている《と

ちぎYMCA会員大会（YMCA活動の現在と昨年
の報告）》ですが、今年はとちぎYMCAのホーム
ページに『別冊！TheとちぎYMCA』として開
催中です。（11月30日～3月31日）

<https://bessatsu-ymca.jp/>

特集は、最もホットなYMCA活動の新潮流「居場
所（おでん屋台プロジェクト、親と子どもの居場所
めいめい、アットホームきよはら等）」と、7月移
転したYMCA EAST会館（宇都宮市陽東4丁
目18-30、YMCA本部登記館）の様子です。
もちろん、公益法人の情報公開として2023年度
の事業報告書や決算書も載っています。

双方向のコミュニケーションの場でもありますので、
フォームで皆さまからのお問い合わせも受け付け中
です。ぜひ一度『別冊！TheとちぎYMCA』を
ご覧ください。

◇指定管理事業《宇都宮市まちづくりセンター・ま
ちぴあ》が2027年4月スタート！

2024年6月6日に公募があった「宇都宮市まち
づくりセンター・まちぴあ」の指定事業者にとちぎ
YMCAが宇都宮市議会（12月）の議決を経て選
定されました。

この仕事では市民によるまちづくりを促進したり、
まちづくりを頑張っているNPOやボランティアや
個人を応援します。地域づくり・まちづくり・人づ
くりの支援活動ですのでYMCA運動の姿と近い
ものでもあります。

現在は鋭意引継ぎ中です。新年度4月になりまし
たらぜひ！LRTに乗っておいでください。

検索 → 宇都宮市まちづくりセンター 指定管理
者の候補者の選定結果

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前（リーダー名） 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCA
に入ったきっかけは？ 5. 思い出に残った活動とその理
由は？ 6. 今後の進路は？ 7. YMCAに一言

お休みします